

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼でホーム内にいつも掲示されている理念を唱和し、徹底するよう取り組んでいる。	ホーム玄関に法人の理念「共に歩む」と法人のコンセプトをベースにした事業所としての目標が掲げられており、来訪者に分かりやすくなっている。職員の朝礼をこの場で毎日行ない唱和している。管理者は理念はもとより認知症への理解度を深めることにも重点を置いており、職員もこれらを十分理解し日々のそれぞれの役割の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	機会あるごとに地域の防災訓練や文化祭に参加している。また、施設の秋祭りを区内の住民に回覧版でお知らせし、多くのみなさんにきていただいた。常に地域のみなさんにあいさつを心がけ、そのためか近くの畑から花・野菜の差し入れがある。	9月末に実施された地区「防災の日」に管理者と計画作成担当者が出席した他、10月末に行われる地域文化祭にホームからも出品しようと全員で制作に勤しんでいる。ホームを理解していただくために10月1日に行なった秋祭りにも地区の大勢の方が訪れ、いなり寿司や豚汁のふるまい、血圧測定などの健康相談、職員手作りのゲームなどで盛り上がった。その際にもすぐ近くにある森林組合事務所からも協力をしたいとの申し出を頂いた。手芸、ハーモニカなどのボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はできていないが、今後は計画していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	充分な意見交換を行い、施設運営に理解を深めて頂き、サービスの向上につなげている。	2ヶ月に1回、奇数月の第3水曜日15時30分から実施している。家族代表、高齢者の会の代表者、民生委員、区長、町担当部署職員、法人副理事長等が参加している。医療連携、防災対策、地区の催しへの参加依頼など多岐にわたって質疑応答を重ねている。いただいた貴重な意見等については職員会で伝えサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況を随時報告するなど、情報の交換に努めている。	町の担当部署とは折に触れ連絡や相談をしている。また、隣接の市町村の担当部署からも入居についての照会があり対応している。介護認定の更新には広域連合の担当者がホームに来訪し、家族も交え、情報の交換や検討をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアスタッフとしての自覚と誇りを持って、身体拘束はしていない。	開設から10ヶ月を過ぎ外出傾向の見られる方は殆どなく、落ち着いている。法人内に委員会があり、拘束についての報告や研修などで「拘束をしないケア」について繰り返し学習をしている。職員も禁止の対象となる拘束については正しく理解しており実際にそのような事例は全くない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳を大切に、身体的・精神的虐待の防止に細心の注意を払っている		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・講演会へ積極的に参加し、必要な支援ができるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時に丁寧な説明をしている。また、質問しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との会話や、面会時やメールで寄せられる家人からの意見を、職員会等で共有し、運営に反映している。	介護度の平均も2未満と比較的軽く、「仕事をさせて!」とか「どこかへいきたい!」あるいは「買い物は?」とその時々思いは表出できている。家族の来訪も入れ替わり立ち代り頻繁にあり、意見や要望をその際に聞いている。ホームの案内書に載っているメールアドレス宛に要望等を届ける家族もいる。ホームの秋祭り等に合わせ家族会が開催されており、開設以来の10ヶ月間で2回実施され、全家族が出席している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会で職員からの意見・提案を話し合い、運営に反映している。	職員会が毎月第3水曜日の9時から開かれており、業務改善他の議題に沿って進められている。開催前の2~3日前に議題が提示され、当日職員が意見や要望を発表しやすいようにしている。目標管理制度が導入されており、法人役員との面接も年2回実施され、職員ごとに「目標管理カード(ブリセプター)」を作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員にこまめに声をかけるよう努めている。また、昼休みの確保など、働きやすい職場環境をつくるために、職員と話し合っ、業務改善を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を活用し、全職員が必要な研修を受けられるよう配慮している。また、モチベーションがあがるような言葉かけを心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上伊那地区の小規模事業所の会議、または勉強会に参加し、意見交換や見聞を広め、質の向上にむけ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に関する情報を収集するほか、日常の地道なケアを誠実に積み重ねながら、信頼感関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の情報を収集する段階で、充分にお話を聞くようにしている。また、入所された数日はご様子を家人に電話でお伝えし、安心していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、その利用者様にとって一番に必要な支援は何か、職員間の情報交換を密にして見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と目線を合わせ、本人の持てる能力に応じて役割を分担していただきながらともに生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を共有し、協力しあう事で、共に利用者様を支えていけるパートナーとしての関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	知人・友人・家族などなじみの方々が多数訪れてくださるので、訪問しやすい環境、居心地の良い環境作りに努めている。	昔の職場の仲間や近所の方が面会に来られ歓談している。ホームでは出張の理容師を受け入れしているが、家族とともに行きつけの理髪店へ通う方もいる。お盆に日帰りで自宅へ帰る入居者や逆に季節の節目に親族がホームに訪れて来る方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う利用者様同士が関わりの時間を持てるよう、両棟の行き来が自由にできるよう配慮している。また、利用者間の関係を考慮して、席の位置を決めている。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様を訪問したり、行事の案内をしている。退所者の家人が施設の秋祭りに飛び入りで余興を見せてくれた。また、複数の家人の電話での相談に乗っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言動の中から、本人の希望や想いを把握できるよう、カンファレンスなどで職員間の情報交換をし、共有している。	入居者の思いや意向を職員で検討する場として今までも不定期ではあったがカンファレンスを開催していた。今後は「15日会」と称する定例会を毎月15日の夕刻に開き、より密度を濃くしていきたいという意向がある。言葉を出しにくい入居者にはジェスチャーで伝え意思確認をしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家人より聞き取った情報を個人ファイルに綴り、全職員で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランにそって介護記録をつけ、カンファレンスを通して利用者様の現状を総合的につかんでいる。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを立てた段階でご家族に内容を説明し、意見をいただいてプランを完成させている。	介護計画は管理者と計画作成担当者が相談し立案しており、家族への説明もされている。基本的には3ヶ月に1度の見直しがされており、急変時にはバックアップ施設である同じ法人の看護師と相談しながら変更をかけている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスの1週間前くらいにプランを職員に配布し、各自気付いた事を書き込んでもらい、カンファレンスで検討して、プランの見直しに反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が嗜好品の購入を希望されれば、個々に対応したり、家族の状況を見て、利用者様の受診に付き添ったりしている。	

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんをお願いして利用者様の散歩に付き合っていたり、草餅作りや、楽器の演奏をしていただき、利用者様の楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院はあるが、それにとらわれず、本人・家族が希望される医師に受診または往診をしていただいている。	協力医に変更された方もいるが、入居前からのかかりつけ医を継続している入居者もあり、それぞれの医師による往診がある。通院や受診の付き添いは基本的には家族をお願いしている。骨折等で車椅子を使用するような場合や緊急の場合には職員が付き添っている。バックアップ施設である同じ法人の看護師が週に1回来訪しており、適切なアドバイスを頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、定期的に当施設の担当ナースが来設し、利用者様の健康管理を行っている。利用者様の情報を共有し、相談しつつ適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は時々訪問して本人の状態を見ながら、病院のソーシャルワーカーと密に連絡を取り、治療の方針や退院の時期について、話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態の変化に合わせ、必要時は医師・担当ナース・ケアマネ・本人・家族で話し合い、今後の方針を決めている。	法人としての「重度化及び終末期に向けた指針」がある。開所してから間もないため直接の看取りはないが、ホームとしての受け入れ体制はできている。医師の判断に負うところが大ではあるが、ものが食せなくなってきたら家族や医師と話し合いながら最大限の支援をすることを入居時に家族等に伝えている。職員のうちの数人はバックアップ施設等でも経験しており不安材料は少ない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的にナースに連絡をし、その指示で動くため、特別に訓練は行っていないが、緊急時のマニュアル・緊急連絡網を整備し、伝達訓練をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害を想定した避難誘導訓練や地震対応の訓練を行っている。また、地域の消防団を施設にお呼びし、施設内を点検していただいている。	法人の防災管理担当者により法人内の各施設や事業所の巡回指導が行われている。春には夜間想定での訓練も実施しており、11月には消防署の参加の下避難訓練等を計画している。地区で行われた「防災の日」の訓練には管理者と計画作成担当者が参加している。地元の消防団も万が一の場合に備え、独自にホームを視察してくれている。スプリンクラーや自動火災報知器等は設置されている。	

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心を温める一言を理念に掲げて、人格を尊重した言葉かけを心がけている。	個人情報の保護方針については法人ホームページに掲載されている。事務室が玄関脇にあり入居者の記録等を保管する書棚にも鍵がかかるようになっている。法人として各職員による「自己診断ノート」があり接遇や人権意識についての自己チェックをし、自己採点後管理者あてに提出している。地域独特の言葉使いも交え入居者への対応は穏やかであった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶菓子や、外出時の弁当を個々に選んでもらうなど、機会をとらえて自己決定を促す声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課をもうけず、一人ひとりが自分のペースで過ごせるよう、また外出希望がある方は、極力希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性にはひげをそるよう声かけをしたり、そり残しがあれば、お手伝いしている。着衣も声かけで、好みの服を選んでもらう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ・盛り付け・片付けをできる利用者様が分担して職員と一緒にやっている。	殆どの入居者が自立しており介助することも少なく、キザミやトロミ等を加えなくても良い。食事の準備や後片付けなど、各入居者もできる範囲で手伝っている。食事のメニューは職員の中の調理担当者が立てており、中庭やプランターで育てたミニトマトやネギ、パセリ、枝豆、ホーム隣の畑の耕作者から頂いた季節の葉ものなどが食卓に上ることがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつでも水分補給ができるようカウンターにポットに入れた麦茶を常備している。また、食形態やお茶ゼリーなどで個々の体調に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日中は口腔ケアの促しをし、夕食後は職員が関わって丁寧にケアを行っている。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声かけや、トイレ誘導でおむつの使用を減らすように努めている。	自立している入居者は若干名で、殆どの方がなんらかの介助を必要としている。排泄パターンに沿って定時誘導をし、できるだけトイレで排泄できるように支援している。歩行がゆっくりでトイレまでの時間がかかる方にはポータブルトイレを準備している。人前で失敗したような時にはそれとなくトイレや居室に誘導し着替えをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、食材や水分摂取を工夫している。排便チェックを行い、早めにナースに相談し、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則は一人週2回のペースだが、希望があれば、これを超えて対応している。また、必要があれば毎日入浴している方もいる。	夜勤時の状況によっては職員の判断により夜間の入浴や足浴にも対応している。入浴を拒否する方もいるが時間を置いたり、担当者を変えたりして気分を変えるような工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調をみながら、休息をとっていただいている。布団を干したり、照明・室温など環境面でも気持ち良く休めるよう気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法・用量・副作用については理解している。確実に飲むよう服薬管理には細心の注意をはらっている。医師・担当ナースとの連携もとれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や好みを考えて、草むしり、野菜作り、調理や、気分転換のドライブも兼ねて食材の買い物について行っていただき、それぞれに感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や美術館へコンサートを聴きに行ったり、諏訪湖畔の足湯へ出かけたりと気軽に外出している。	ホーム外へ出掛ける時に車椅子が必要な方が約四分の一ほどいる。日常的にはホーム周辺の農道を散歩したり、2~3人ずつ近くのスーパーやコンビニへ車で買い物に出向いている。ウッドデッキに面して中庭が広く、外気に触れたり、野菜の収穫などもできる。	入居者の重度化や高齢化による課題などはあるが、本人の思いにそって行きたい場所への外出支援を行なうことで本人の意欲の向上につなげていきたい。

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は利用者様がお金に触る機会はありませんが、買い物に出かけた時に、たまにレジで支払ってもらう事があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人に電話したいというご希望があれば、電話をかける支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適環境が保てるよう気を配っている。また、花や飾りなどで季節を感じられるよう配慮している。	福寿草棟、しだれ栗棟の両ユニットがL字型に配置されているので両ユニット間が行き来でき、更に中庭に面したデッキでもお互いに行き来ができる。厨房からはカウンター越しに食堂、リビングへと続いており明るい。共用部分には滑りにくく衝撃吸収性のある床材が使用され安全面にも配慮がされている。また、床暖房が施されているので初めて迎える冬への対策も万全になされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にソファを置き、必要に応じて間仕切りで小さいスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人と相談し、居室には馴染みのある家具を持ってきていただいている。	居室の入り口には花の名前が書かれた表札と職員の手による額入れの切り絵、家族の作った手芸品などが目印として飾られている。居室の中には押入れがついており整理整頓が行き届いている。入居者が持ち込んだ筆筒、ベッド、テレビなどが置かれている居室や畳を入れ布団を使用している方もおり、一人ひとりの使い勝手が良いように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を横出しする事で、遠くからでもわかりやすくなり、居室の入り口に目立つ目印をつけて、迷わない工夫をしている。		